

アッヴィ、長期的な戦略目標及び財務目標を発表、堅調な業績に対する体制を確立

November 11, 2015

本資料は、米国アッヴィ社が2015年10月30日（米国時間）に発表したプレスリリースを日本語に翻訳し、11月11日、皆様のご参考に供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容および解釈については英語が優先します。本資料（英文）については、www.abbvie.comをご覧ください。なお、本文中には日本未承認薬に関する情報が含まれています。

アッヴィ、長期的な戦略目標及び財務目標を発表、堅調な業績に対する体制を確立

- 2020年度までに調整後1株当たり利益（EPS）の平均2桁成長を見込んでいる
- 2020年度の総売上高は約370億ドルと予測している
- 2020年度の全世界のヒュミラの売上高は180億ドル以上、IMBRUVICAの売上高は約50億ドルを目指している
- 大幅な利益増加の見込み、2020年度までに50%超の営業利益率、毎年平均100～200ベースポイントの増加を目指している
- 2020年度までに20以上の新製品の上市または適応症の追加を予定している。パイプラインによって2024年までに約300億ドルの名目売上高を達成し得る
- 堅調に増加し続ける配当金を通じて株主に現金を還元していくことを約束した。2016年度の配当を12%引き上げる（2016年2月の配当分から開始）
- 2015年度比の力強い2桁成長を反映し、2016年度の調整後EPSを4.90ドル～5.10ドルと推定している
- シカゴで開催される2016 ASCO会議にて包括的なR&Dパイプラインレビューを行う予定

米国伊利ノイ州ノースシカゴ（2015年10月30日）－アッヴィ（NYSE：ABBV）は本日、2020年度までの長期的計画を通じた成長や他の財務指標の見通しを含む長期的な戦略目標および財務目標を発表しました。

アッヴィの会長兼CEOのリチャード・A・ゴンザレスは次のように述べています。「アッヴィは、2020年、さらにはそれ以降も、売上の的にも収益的にも力強い業績を達成する体制が十分に整っています。弊社は魅力的で最大級の市場セグメントの複数において成長プラットフォームを確立したことにより、確固たる基盤を築きました。さらに弊社の強固で優れたパイプラインが、今後の長期的計画を通じて業績に大きく寄与していくと考えています」

基幹ブランドであるヒュミラとIMBRUVICAなど既存の市場品ポートフォリオによる継続的な力強い業績、ならびにパイプライン製品の成長に基づき、アッヴィは2020年度の総売上高をおよそ370億ドルと見通しています。これは過去5年における約10%の平均売上高成長率を反映したものです。この見通しでは、2020年度の全世界でのヒュミラの売上高が180億ドル以上と推定しており、これはバイオシミラーに関する世界的な動向予測を適切に考慮したものであるとアッヴィは考えています。さらに、血液がん市場における継続的な成長に牽引され、2020年度のIMBRUVICAの売上高は約50億ドルに達すると予想しています。

分社独立以降、業務効率に注力してきた結果、売上総利益と営業利益が大きく改善されました。アッヴィは、営業利益の継続的な拡大を推し進めており、2020年度までに50%を超える調整後営業利益率の達成および毎年平均100～200ベースポイントの増加を目指しています。2014年度の調整後営業利益率は36.2%でした。現在すでに行われている経費削減の取組み、製品の組み合わせ、および2017年と2018年のヒュミラに関するロイヤルティ費用の削減によって、営業利益率の増加を達成する予定です。また、迅速に成長し続ける売上高による継続的な販売レバレッジも推進していきます。

「売上高の成長および継続的な営業利益の増加に対する弊社のコミットメントによって、2020年度までにEPSの成長率は平均2桁まで伸びると想定しています。アッヴィの基本戦略は順調であり、今後も最高の財務実績を達成するための体制は整っています」と、リチャード・A・ゴンザレスは語っています。

2016年度の堅調な通年見通しを発表

アッヴィは2016年度の通年の調整・希薄化後EPSの見通しを4.90ドル～5.10ドルと発表しました。この見通しは、2015年度比の力強い2桁成長を反映するものであり、これによりアッヴィは来年度も業界最高レベルの成長率を記録することとなります。

アッヴィは、2016年度の無形資産の償却費およびその他の特定項目を後日確定する予定です。

アッヴィ、R&Dデーの開催計画を発表

社内の研究開発の取り組みおよび戦略的ライセンス取得・買収活動を通じて、アッヴィは確固たる医薬品パイプラインを擁し、2024年度までに約300億ドルの名目売上高を達成できる可能性があります（この計算には、市場品とみなされるヒュミラの新規適応症、IMBRUVICAの新規適応症、次世代HCV薬は含まれない）。

アッヴィは、2020年度までに以下の7つの承認を含む、20以上の新製品を上市または適応症を追加していく予定であり、これらは2016年度以降の財務実績に寄与します。

- 慢性リンパ性白血病（CLL）の第一選択治療薬など、IMBRUVICAの適応の拡大
- 化膿性汗腺炎（HS）およびぶどう膜炎など、ヒュミラの適応の拡大
- 日本におけるジェノタイプ1B型のC型肝炎ウイルスに感染した患者さんを対象とするVIEKIRAXの承認
- 17p欠失の遺伝子突然変異を伴う再発性／難治性のCLL患者さんを対象とするVenetoclax
- 再発寛解型多発性硬化症を適応とするZinbryta
- 再発性／難治性の多発性骨髄腫を適応とするElotuzumab

アッヴィはシカゴで開催される2016 ASCO会議にてR&Dパイプラインレビューを行う予定です。このイベントでは、ウィメンズヘルス、腎疾患に対する後期開発の取組みに加えて、自己免疫疾患、オンコロジー、感染症、神経学における中核プログラムを含むアッヴィの研究開発プログラム、ならびにこれらのパイプラインの商業的な可能性の展望に関する詳細を発表する予定です。

アッヴィ、12%の配当の引上げを発表

また、アッヴィは本日、取締役会が四半期現金配当を1株当たり0.51ドルから1株当たり0.57ドルへ引き上げたことを発表しました。この現金配当は、2016年1月15日終業時点の登録株主に対して2016年2月16日に支払われます。この引上げ率は約12%となり、配当金増加を通じて株主に現金を還元していくというアッヴィの継続的な強い姿勢を反映したものです。2013年の分社以降、アッヴィの配当は42%超上昇しています。

アッヴィについて

アッヴィは、アボットラボラトリーズからの分社を経て2013年に設立された、研究開発型のグローバルなバイオ医薬品企業です。専門知識や献身的な社員・イノベーション実現に向けた独自の手法を通じて、世界で最も複雑かつ深刻な疾患領域における先進的な治療薬を開発・提供することをミッションに掲げています。アッヴィは、100%子会社のファーマサイクリクス社を含めて世界で28,000人以上を雇用し、170カ国以上で医薬品を販売しています。当社の概要や人材・製品群・コミットメントに関する詳細はwww.abbvie.com をご覧ください。よろしければTwitterアカウント@AbbVieもフォローください。また、人材情報はFacebookやLinkedInページをご参照ください。

投資家向け電話会議

アッヴィの主催により、本日午前8:00（中部時間）に投資家のみなさまを対象とした電話会議を開催いたします。会議では第3四半期の業績と長期的な財務目標について説明します。会議の参加者はRick Gonzalez（Chairman/CEO）、Bill Chase（executive vice president/CFO）、Laura Schumacher（executive vice president/business development, external affairs and general counsel）、Mike Severino（executive vice president/research and development/chief scientific officer）及びLarry Peepo（vice president/investor relations）です。電話会議はアッヴィの投資家向けウェブサイト（www.abbvieinvestor.com）上でインターネット配信されます。本日の発表に関するスライドも同サイトから閲覧可能です。電話会議のアーカイブは、午前11:00（中部時間）から閲覧可能となります。

非GAAPの業績

業績に関しては、調整前（GAAP）および調整後（非GAAP）の両方で提示しています。調整前の業績はGAAPに従って作成したもので、同期間に計上されたすべての売上高と費用を含んでいます。非GAAPの業績は、特定の非現金項目と予測不能な臨時的要因について調整を行ったもので、それらの費用、支出およびその他の特定項目（調整表に記載）を除外しています。アッヴィの経営陣は、非GAAPの財務指標はアッヴィの業績に関する有用な情報を投資家に提供し、経営陣、アナリストおよび投資家が業績を評価する際に役立つと考えています。非GAAPの財務指標はGAAPに従って作成される財務指標を補足するものであり、これに代わるものではありません。また、当社の財務見通しに関しても、調整前（GAAP）と調整後（非GAAP）の両方で提示しています。

今後の見通しに関する陳述

本リリースにおける記載には、Private Securities Litigation Reform Act of 1995（1995年米国私募証券訴訟改革法）に示される「今後の見通しに関する陳述」が含まれています。「確信」「期待」「予測」「計画」という言葉およびそれに類する表現は、一般に将来予想に関する陳述となります。当社からの注意喚起として、このような将来予想に関する陳述はリスクおよび不確実性による影響を受け、実際の結果と将来予想に関する陳述での予測との間に大幅な相違が生じる可能性があります。このようなリスクおよび不確実性には、知的財産に対する脅威および他社製品との競合、研究および開発プロセスに特有の困難、敵対的訴訟または政府による介入及び業界に関連する法律および規制の変更などがあります。アッヴィの経営に影響を及ぼす可能性のある経済、競合状況、政府、科学技術およびその他の要因については、Securities and Exchange Commission（米国証券取引委員会）に提出済みのアッヴィの2014年度アニュアルレポート（10-K書式）の1A項「リスク要因」および2015年度第2四半期レポート（10-Q書式）Part 2の1A項「リスク要因」に記載しています。アッヴィは、法律で要求される場合を除き、本リリースの発表後に発生した出来事または変化によって、今後の見通しに関する陳述を更新する義務を負わないものとします。